



独立行政法人国立病院機構 東徳島医療センター

〒779-0193 徳島県板野郡板野町大寺字大向北1-1

TEL 088-672-1171 FAX 088-672-3809 URL <https://higashitokushima.hosp.go.jp/> e-mail 515-KANRIKA@mail.hosp.go.jp

やさしい笑顔と よりそう医療

1月号
vol.186
2021.1.1
（土）

退職の年に思う



東徳島医療センター院長 木村 秀

あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症に明け暮れましたが、今年もどうなる事かわかりませんが、早く平常の生活を取り戻したいものです。

さて、東徳島医療センターに着任して、もう5年が過ぎようとしています。はじめは2年程度を考えていましたが、定年延長を重ねて5年になってしまいました。この5年間で院長として何が出たか反省する事ばかりですが、その中で記憶に残っている出来事を少しお話ししたいと思います。

まず着任早々取り組んだのは病院の理念作りでした。皆で作る理念、組織を動かしていく旗印、これは私が押し付けて作るものではなく、皆に参加して作ってもらう事を優先しました。そこで副院長を委員長として未来を考える会を創設し、アイデアを出してもらい、覚えにくい長い理念より覚えやすい短いキャッチコピーを作る事にしました。全員参加で選んでもらったのは、やさしい笑顔とよりそう医療でした。この病院を端的に表現できた素晴らしいキャッチコピーでした。

次に行ったのは学校長として看護学校閉校の決断でした。日赤時代にも閉校に関わったことがあり、閉校に遭遇するのは今回で2回目でした。私が生まれた年に創立した学校で、私の退職と同時に閉校を迎えるとは、なんと奇遇なことか。閉校を決めてから4年、在職中に閉校を見届けられ少し責任が果たせた気がします。

そして、次に行ったのは包括ケア病棟（60床）への再編でした。この再編は容易ではなく組織改

革を伴い医局やメディカルスタッフの説得が大変でした。前年度の赤字をこれで一気に黒字に転換し、傾きかけた病院を皆の手で復活できたことは、職員のモチベーションに大きく影響しました。

最後は私の定年延長を促した徳島病院との統合計画です。外来棟の新築は入札の時期になっていましたが、統合計画がもちあがり延期に。この5年間で何とかCT、MRI、電子カルテの導入は済ますことができ、あとは外来棟だけになっていました。これが私にとって唯一の心残りで、次の院長に引き継ぐ課題でもあります。

この病院は結核撲滅のために国立の療養所として開設され、現在に至っています。新型コロナウイルス感染症が拡大している今、もう一度国は国立病院機構の位置づけを考え直す時かもしれません。10年に一度やってくるパンデミック、今までもないがしろにされていた感染症対策、これからはポストコロナの時代にふさわしい病院づくりを考えていく必要があるでしょう。



本年もよろしくお願いします

消化器内科 高場 梓

新年、あけましておめでとうございます。コロナ禍で迎える初めての年末年始となりましたが、皆さんどのように過ごされましたか。GWやお盆休み同様、帰省を控えた方も多かったのではないのでしょうか。我が家も、お正月は夫の実家がある名古屋に行くのが毎年恒例となっていました。このコラムを書いている11月下旬はコロナ第3波襲来の真っ只中、おそらく徳島で過ごすことになったと思います。一日も早く新型コロナが落ち着くのを心から願う日々です。

昨年10月に東徳島医療センターに赴任し、3ヶ月が経ちました。今までは子供がまだ小さく、半日だけの、終了時間が決まっている内視鏡やエコーなど、検査業務がメインの仕事をしていました。娘を出産後の仕事復帰は、娘がまだ8カ月の頃。ようやくお座りが上手にできるようになったばかりの、まだお乳を飲んでる赤ちゃんでした。生まれてから片時も離れたことのない我が子を初めて保育所に預けた日、娘と離れるのがあまりに辛く、今生の別れの如く私も娘も大号泣したことを昨日のこのように覚えています。それから毎朝、大泣きする娘に背中を向けて仕事に行く時、こんなに可愛い時期に一緒にいてあげられないな

んて、こんな思いをしてまで仕事をする必要があるのかと悶々とする日もありました。娘も昨年4月から小学生になり、朝はハイタッチをしてご機嫌で学校に出かけて行き、仕事が終わってダッシュでお迎えに行くと、ママ早過ぎ～！なんて怒られたり。知らない間にどんどん成長し、あっという間に大きくなって親から離れて行ってしまいうんだなあと寂しくなる今日この頃です。ちなみに、このコラムには一切登場しませんでした。昆虫と恐竜に夢中の年中の息子もおりまして。4歳の男の子はまだまだ赤ちゃん♥夫と娘が呆れるほど毎日絶賛溺愛中です！10月から夕方までの勤務となり毎日ドタバタですが、大きくなったらママと同じ消化器内科のお医者さんになりたい、と言ってくれる娘に恥じないよう頑張りたいと思います。本年もどうぞよろしく申し上げます！



『特定行為』とは

さて、今回は特定看護師および診療看護師（JNP）が行えるとされている『特定行為』についてお話しします。

『特定行為』は、実践的な理解力、思考力及び判断力、高度かつ専門的な知識・技能が特に必要とされる看護師が診療の補助として行う38の医療行為です。これは、大きく21の特定行為区分に整理されています。

当院の特定看護師は『呼吸器関連』の6項目を受講しており、主に病棟で気管カニューレを装着している患者さんや呼吸器管理を行っている患者さんに関わらせて頂いています。

またJNPは、医師の直接指示およびすべての特定行為が行えますので、外来・病棟を問わず様々な患者さんに関わらせて頂いています。

今回は『手順書』について、お話をさせていただきます。

図：特定行為及び特定行為区分（38行為21区分）

ブルー：当院特定看護師が行える特定行為
ブルー+ピンク：JNPが行える特定行為

特定行為区分	特定行為
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブまたは経鼻用気管チューブの位置の調整
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	侵襲的気管挿入の調整
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	非侵襲的気管挿入の調整
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	人工呼吸管理がなされている者に対する肺静脈の投与量の調整
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	人工呼吸器からの離脱
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	気管カニューレの交換
循環器関連	一時的ペースメーカーの操作及び管理
循環器関連	一時的ペースメーカーリードの固定
循環器関連	経皮的な心臓補助装置の操作及び管理
循環器関連	大動脈内バルーンポンピングからの離脱を行うときの補助頻度の調整
心臓ドレーン管理関連	心臓ドレーンの抜去
胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン持続吸引機の吸引圧の設定および設定の変更
胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーンの抜去
腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜去を含む）
ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換
栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	腸ろうカテーテルの交換
栄養に係るカテーテル管理（経口経腸型中心静脈カテーテル管理）関連	中心静脈カテーテルの抜去
創傷管理関連	経口経腸型中心静脈カテーテルの挿入
創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
創傷管理関連	創傷に対する止血閉鎖療法
創傷ドレーン管理関連	創傷ドレーンの抜去
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
透析管理関連	機動動脈ラインの確保
透析管理関連	急性血液透析療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カリウム・高カルシウム又は高クロールの投与量の調整
感染に係る薬剤投与関連	脱水症状に対する輸液による補正
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与
術後疼痛管理関連	インスリンの投与量の調整
術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のナトリウム・カリウム又はクロールの投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中の経腎輸液又は経腎輸液の投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時の投与
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗精神薬の臨時の投与
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗不安薬の臨時の投与
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗凝固剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整

● 看護学校便り ●



今回、私たち看護学生24名と教員が協力し、ホスピタルアートを制作しました。デザインのコンセプトは「自然がもつ雄大さ、優しさ、癒しを感じられる空間にしたい」です。徳島の自然の代表とも言える鳴門の渦潮、その潮流は力強く活力や勇気を与えてくれます。また、東徳島医療センターを取り巻く豊かな自然として「くすの木」「桜」「金木犀」「つばめ」を表現しました。デザインに込めた思いは下記をご覧ください。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、今年度、本校で最後となる「第40回東徳祭」の開催が中止されました。毎年、地域の方々や患者様、保育園の子供たちや支援学校の学生さん、病院職員の皆様など多くの方々と交流が図れる1日であり、楽しみにしていたのでとても残念でした。どのような形で皆さんと交流を図ろうかと思案していた時に、西病棟の中庭窓に「ホスピタルアート」を制作してはどうかと提案していただきました。

病棟の広い窓を見たとき、「初めてすることだし上手くできるのだろうか」「完成するのかな」と不安を感じましたが、デザインが決まり本格的に制作が始まると、「不安」だった気持ちがしだいに薄れ、患者さんに「癒しの空間」を届けたい思いで皆一生懸命取り組んでいきました。病棟の窓の大きさを測りに行ったり、模造紙で型紙



ホスピタルアートの制作活動を終えて

を作ったり、グラフィックシートを無駄にしないよう何度も試作を繰り返しながら11月20日、いよいよ制作当日を迎えました。活動している私たちに患者さんや病棟職員の方々が「綺麗な。すごいね」と言葉をかけてくださり、心がとても温くなりました。このような活動が出来て本当に良かったと感じました。活動を終えた今、一つの目標に向け、皆で意見を出



しあい、助け合い、物事を成し遂げることの大切さを改めて学ぶことができました。この「アート」に触れた方々が笑顔になり癒しの空間となることを願っています。

今回、卒業記念という形で「ホスピタルアート」の制作という初めての経験は、これからの社会活動のなかでも生かされると思います。新型コロナウイルス感染症が拡大している中でしたが、日頃から私たちを支援してくださっている方々にお礼の気持ちを伝えられる機会を得られたことに感謝しています。

(特別教育活動委員／高本ありさ・佐賀 勇太・北條 凜乃・中尾 汐里・石川あかり 竹内 友美(教員))

卒業記念

キーワード 自然 癒し 巣立ち 感謝

コンセプト

今回のグラフィックデザインは、「自然がもつ雄大さ、優しさ、癒しを感じられる空間にしたい。」という願いを込めました。徳島の自然の代表とも言える鳴門の渦潮と東徳島医療センターを取り巻く豊かな自然をイメージし、2種のデザインを製作しました。病院から一歩、外に出て深呼吸をした時のような清々しい気分を味わっていただけると幸いです。

グラフィックデザインに込めたメッセージ

まず、徳島が世界にも誇れる「鳴門の渦潮」をモチーフにしました。その潮流は、見る人が息を呑むほど力強く、活力や勇気を与えてくれます。皆様の回復に向け、前進する力になればと思います。また、病院を取り巻く自然として「くすの木」「桜」「金木犀」「ツバメ」をモチーフにしました。大きく、どっしりと根づく、当院のシンボル「くすの木」は、揺るがぬ強さで、いつも私達を見守ってくれます。3年前、入学した私達は、満開の花が咲き誇る「桜の木」に出会いました。桜の花は、春の暖かい陽射しとともに、私達に進級を知らせてくれ、改めて頑張ろうという気持ちにさせてくれました。澄み切った秋空の下、橙色の花がこぼれる「金木犀」は、講義、実習、学校行事と多忙な毎日を送る私達を、甘い香りで優しく包みこみ、癒してくれました。校舎には毎年幸せの象徴であるツバメが訪れます。私達もツバメのように、恵まれた環境の中、多くの方に支えられ、大切に育てていただきました。特に、実習を快く受け入れてくださった患者さんから多くのことを学ばせていただきました。患者さんの「ありがとう」という言葉から何度も勇気もらい、看護の楽しさややりがいを感じ、もっと頑張ろうという気持ちになりました。病棟スタッフの皆様には、実習しやすい環境を整えていただき、科学的根拠に基づいた個性のある看護を教えていただきました。私達 38 期生 24 名は同じ志を持ち、切磋琢磨しながら成長し、巣立ちの時を迎えます。看護学校で学んだこと、皆様に育てていただいた感謝の気持ちをいつまでも忘れず、精進します。

独立行政法人国立病院機構東徳島医療センター附属看護学校 第38期生一同

Best wishes
on your
graduation!

烏野 敬介／林 み子／賀川 敏江